

開学30周年 おめでとうございます

SAIJOでの濃密な2年間を過ごし、希望の就職を実現した卒業生から
母校SAIJOの30周年に、あたたかいメッセージをいただきました。



ANAエアポートサービス株式会社
【ANAグループ・ANAロンドン空港勤務】
児玉 千穂さん
国際コミュニケーション学科 2013年3月卒業
宮城県立仙台三桜高等学校出身

エアライン業界で働くという高校生の頃からの夢…
SAIJOで学んだからこそ叶えることができました

開学30周年おめでとうございます！卒業した今もSAIJOで過ごした時間
はかけがえのない素敵なものでした。現在はANAエアポートサービス株
式会社で、グランドスタッフとして働いています。2年前からはANAの最上
級会員をおもてなしするコンシェルジュに任命され、日々お客様を笑顔で
おもてなししています。

在学中は森川ゼミに所属し、エアラインに関する様々なことを学びつ
つ、学園祭の実行委員長を務めたり、JTBカナダで3週間の研修に参加す
るなど様々なことにチャレンジしました。SAIJOで出会った仲間も今では大
切な親友です。SAIJOでの2年間は私の人生において宝物です。

2019年4月からは1年間研修生としてANA ロンドン・ヒースロー空港支店
にて海外空港の業務を学ぶ予定です。SAIJOは女子の夢を応援する短大。
これからもずっと変わらない大好きな母校であってください。



埼玉医科大学国際医療センター
【JCI(国際病院評価機構)認定病院】
富澤 鈴香さん
商学科 2013年3月卒業
埼玉県立坂戸西高等学校出身

今でも思い出すのはSAIJOで学ぶ
診療報酬請求の勉強がとても楽しかったことです

開学30周年おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。私は現
在、大学病院で医療事務スタッフとして働いております。受付から外来・退
院会計、労災請求や後輩の育成指導などが主な業務です。在学中は医療
事務コンピュータコースで、元気な女子からおとなしい女子まで在籍して
いて賑やかなゼミでした。バドミントンサークルや医療事務研究会にも所
属していましたが、診療報酬請求の勉強がとても楽しく、一番強く思い出
に残っています。

SAIJOでは「マナーとホスピタリティ」を体系立てて学ぶことができま
した。社会人になり、勤務する病院には目上、年上の方がたくさんいらっしゃ
るので、マナーをきちんと身につけることはとても大切なことだと実感して
います。私の在籍時よりもSAIJOはさらに素敵で、快適に学べる環境になっ
たようです。今後ますますのご発展とさらなる飛躍を祈念いたします。

■2020(令和2)年度 夢を目標に変える2学科13コース

商 学 科

- ファッショントレンドコース
- ビューティーホスピタリティコース
- 経営・マーケティングコース
- 会計・事務コンピュータコース
- 医療事務コンピュータコース
- 調剤薬局事務コース

国際コミュニケーション学科

- 観光・エンターテインメントコース
- ホテル・ホスピタリティコース
- エアライン・ホスピタリティコース
- ブライダル・コーディネートコース
- ウェディング・ファッショナコース

両学科共通語学コース

- 英語グローバルコース
- 韓国語コース



大規模修繕工事を終えた日高キャンパス

■2年間で成長して社会で活躍するためのSAIJOの特別な学び

マナー・ホスピタリティ教育

元ANA客室乗務員の教員を中心と
した丁寧な指導により、どの業界で
も通用する洗練されたマナー・ホス
ピタリティを身につけられます。

業界出身の教員による授業

第一線で活躍してきた一流の講師
陣が、卓越したプロのスキルと経験
を活かして指導。企業から求められ
る洗練された人材を育みます。

課外授業・企業研修

学内での学びに留まらずコースごと
に業界の協力企業を訪れ、プロから
貴重な知識を学ぶとともに目指して
いる職場の雰囲気を体感します。

海外研修・留学

国際性と語学力を身につけて将来
の仕事に活かすため、海外研修、海外
インターンシップ、海外留学などの
国際プログラムを用意しています。

■科学研究費助成事業

平成31年度、埼玉女子短期大学では
分担研究者を含め3件が採択されました。

科学研究費補助金は、日本学術振興会が主体となり、あら
ゆる分野の基礎から応用まで、独創的・先駆的な「学術研
究」を対象に、厳正な審査を経て助成が決定される「競争
的資金制度」です。

| 研究種目 | 課題番号 | 研究課題名 | 氏名 |
|---------|----------|--|---------------------|
| 基盤研究(C) | 19K00842 | 学習者のビデオ映像活用に基づいた 韓国語プログラムの評価研究 | 岡田 靖子 講師 |
| 若手研究 | 18K17835 | 形態指標を用いたアスリートの身体組成の 推定式開発 | 設楽 佳世 講師 |
| 基盤研究(B) | 18H00667 | ロマンス諸語におけるテンス・アスペクト・ モダリティ・エビデンシャリティの対照研究 | 岸 彩子 准教授 (分担研究者) |

学校法人 川口学園

埼玉女子短期大学

〒350-1227 埼玉県日高市女影1616
TEL.042-986-1616(代表)
<http://www.saijo.ac.jp>



ホームページ



LINE@



1989(平成元年) ▶▶ 2019(令和元年) ▶▶

SAITAMA WOMEN'S JUNIOR COLLEGE
THE 30th ANNIVERSARY

感謝・共生・かけ橋

SAIJO 30

年のあゆみ



学校法人 川口学園

企業に近い
キャリア短大 SAIJO
埼玉女子短期大学

開学30周年を迎えて 感謝・共生・かけ橋

感謝を忘れず、共に生き、 未来へのかけ橋をつくります

本学は1989年(平成元年)に開学し、今年で30年が経過したところです。ここに開学30周年記念式典が、多くの関係者の方々のご協力のもと挙行されるに至りましたことを心から感謝申し上げます。

平成の30年間と歩みをともにし、本学も狭山キャンパスで10年間、日高キャンパスに移転して20年間の歳月が経ちました。平成の歴史に重なるかのように、本学の歴史も決して平稳なだけの歳月ではなく、難問難題を乗り越えて今日に至りました。これでもひとえに関係各位のご指導、ご鞭撻、並びにご支援の賜物と思っております。今後さらに建学の精神「不偏不倚」を原点に、教育理念「中庸・自立」の浸透を図り、本学の一層の発展を希求するものであります。

記念式典のスローガンである「感謝・共生・かけ橋」にあるように、あらためてお世話をなったすべての関係者各位に埼玉女子短期大学教職員一同を代表して感謝を申し上げ、地域社会や関係機関と更なる連携を図り、それを将来への発展へと繋いでいく所存であります。



栗沢 栄一
埼玉女子短期大学 学長

| ●歴代学長 |
|--|
| 山岡 喜久男 1989(平成元)年4月1日～1991(平成3)年3月31日 |
| 清水 武 1991(平成3)年4月1日～1995(平成7)年1月10日 |
| 小林 太三郎 1995(平成7)年4月1日～1999(平成11)年3月31日 |
| 中山 和久 1999(平成11)年4月1日～2003(平成15)年3月31日 |
| 鈴木 健一 2003(平成15)年4月1日～2009(平成21)年3月31日 |
| 栗沢 栄一 2009(平成21)年4月1日～現在 |

30周年を迎えて

平成元年4月、埼玉女子短期大学は埼玉県狭山市に開学しました。設置した川口学園は昭和10年に早稲田式速記普及会として発足し、当時は2校の専門学校を運営しておりましたので、学園としては3校目にして念願の短期大学設置でした。教養教育に加え、この専門学校で培った実務教育を特色とした本学は、就職に強みを発揮して順風満帆なスタートを切ることができました。

そして平成11年に現在の日高キャンパスに移転し、以来20年が経過、ここに開学30周年を迎えることができました。これまで本学の発展に貢献していただいたすべての関係者各位、教職員、さらには卒業生の皆さまに心より御礼申し上げます。我が国の少子高齢化が進展していくなかで、埼玉女子短期大学は社会から必要とされる教育機関であり続けるよう努めてまいりますので、今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

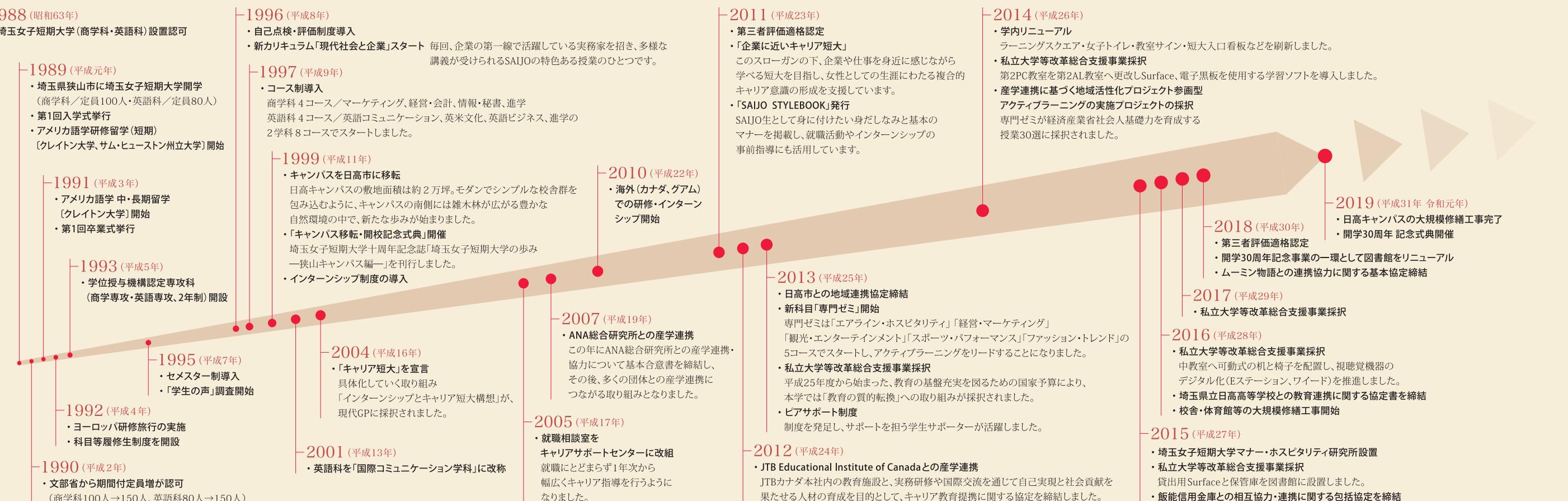


川口 拓也
学校法人川口学園 理事長

- 創立者 早稲田式速記普及会会長
川口 渉 1935(昭和10)年5月15日～1956(昭和31)年7月21日
- 早稲田式速記普及会会長 早稲田速記学校校長
川口 晃玉 1956(昭和31)年7月～1964(昭和39)年6月3日
- 財団法人早稲田速記普及協会理事長
川口 晃玉 1964(昭和39)年6月4日～1969(昭和44)年7月13日
- 学校法人川口学園理事長
川口 晃玉 1969(昭和44)年7月14日～2018(平成30)年3月31日
川口 拓也 2018(平成30)年4月1日～現在

表紙の文字 は早稲田式速記文字によって
サイジョ(埼玉女子短期大学の略称)と書かれたものです。

◆ SAIJO 30年のあゆみ



入学案内書



ともに歩んできた埼玉女子短期大学の
30周年に喜びもひとしおです



三好 善彦 教授 商学科 学科長

埼玉女子短期大学が30周年を迎えることは、本学の先進的・実利的な女子教育の現場で教鞭をとる私にとって、大変嬉しいことでございます。私自身、開学2年目の平成2年より資格取得特別講座を担当し、平成5年からは専任教員として本学と共に歩んでまいりました。

本学は開学以来一貫して実務能力及びビジネス感覚を備えた人材の育成を目指し、コース制の導入に加え「キャリア短大」を標榜し実践することで、職業意識の高い女性を社会に輩出する教育機関として高い評価を得ています。これもひとえに本学の礎を築き上げてこられた教職員、卒業生、関係各位の努力があったからこそ感謝しております。さらなる本学の発展に向けて、皆さまのご指導、ご支援を賜わりますようお願い申し上げます。

さまざまなタイプの学生が集う、 全国区の短大へ

金丸 雅樹 事務局長



本学は、まさに平成とともに数多くの大学改革に取り組んできました。日高市への移転により以前の約4倍の自然豊かな新キャンパスになり、少子化、四大志向のなか「キャリア短大」を宣言。今日の「企業に近いキャリア短大」に連なる特色あるSAIJOの方向性が示され、本学の転機となりました。

入学者の出身地は地元埼玉県を中心に北は北海道、南は沖縄県まで広がりをみせています。幅広い地域から学生が入学し、学内にはいろいろなタイプの学生が集い、学生同士はもとより、教職員にとっても良い刺激となり、本学の魅力にもなっていると思います。これからも、全国あるいは海外までも視野に入れ、学生たちの自己実現を応援するチャレンジを積極的に進めていく所存です。

この先も、地域とともに 可能性と人間性を磨く教育を



三ツ木 丈浩 教授
国際コミュニケーション学科 学科長

平成元(1989)年に狭山市に開学した本学も、令和元(2019)年に開学30周年を迎えました。開学時、国際コミュニケーション学科は「英語科」としてスタートし、2001年の名称変更を経て今日に至っています。しかし、英語科の時代から現在まで、学科の精神は変わりません。総合的な英語教育と産業界に貢献できる実務教育に重点をおき、国際社会を視野に、コミュニケーション能力や豊かな人間性を培うことを教育目的として掲げています。

本学の学生たちは、その活発さやホスピタリティについてしばしば称賛をいただいてまいりました。これからもこの先の国際社会を見据え、一人ひとりの可能性と人間性を磨く、埼玉女子短期大学らしい教育を実現してまいります。

開学30周年を迎えて 感謝・共生・かけ橋

建学の精神 不偏不羈

川口学園の創設者である故川口涉先生は、教育の究極の目的は人づくりにあるとして、その心を建学の精神である「不偏不羈」という言葉で示されました。「不偏」とは片寄らないことであり、公正を重んじること。多くの人々と平等に接することでもあります。また、「不偏」は普遍に通ずる言葉であり、すべてのものにあてはまり、すべてのものに共通していることであるという埼玉女子短期大学初代学長 山岡喜久男先生の解釈があります。

「不羈」とはとらわれない自由な心、「開かれた心」の在り方を示しています。教育の現場においては、「公正でとらわれない心」が積極的な人間形成、すなわち人間の個性の発展・徳性の伸長のために大切な要素であると考えます。

自由と個性の尊重、自己規制、他者を慮る心を養成する人間教育の原点が、「不偏不羈」という言葉に込められています。

開学30周年ロゴマーク



開学30周年スローガンを～感謝・共生・かけ橋～としました。多くの卒業生とその学生たちを導き、成長を支えてくださった方に感謝し、相手の立場になって考え行動できる思いやりや気遣う心が、社会との共生につながると教育の現場で伝えてきました。そして感謝を忘れず、社会との共生を大切にすることで、輝く未来へのかけ橋をつくると心に誓う開学30周年です。

[産学・官学連携]

**産学・官学連携により、一流企業や官庁のノウハウを活かす
価値ある実践教育を実現**



栗沢 栄一 飯塚 文雄
埼玉女子短期大学 学長 事務局長補佐

SAIJOは一流企業のノウハウを教育現場に活かすことを目的として、2007年9月に株式会社ANA総合研究所と業界で初めて産学連携の基本合意書を締結しました。以後、学外での現場学習やインターンシップなど、教室では学べない良質な実体験の機会を多く得ることができますよう、4企業、1官庁との産学・官学連携を実現してきました。この連携によって、卒業後に必要な経験値を高めることができ、さまざまな業界で通用する社会性を備えた質の高い人材の育成に成功しています。今後についても企業に近いキャリア短大として、さらに産学・官学連携を発展させていきます。

■ SAIJOの産学・官学連携

- 2007(平成19年)
ANA総合研究所との産学連携
ANA(全日空)グループ出身の専任教員による実践的な授業や、空港インターンシップを実施した。
- 2012(平成24年)
JTB Educational Institute of Canadaとの産学連携
JTBカナダ本社内の教育施設JIC (JTB Educational Institute of Canada)と協定を締結した。

- 2013(平成25年)
日高市との地域連携協定締結
歴史、文化、人的資源の活用と両者の発展に寄与する地域連携を推進。

- 2015(平成27年)
飯能信用金庫との連携締結
経済、金融、教育、環境などの分野において、相互協力・連携に関する協定を締結した。

- 2018(平成30年)
ムーミン物語との産学連携
[ムーミン] を運営するムーミン物語との連携の締結で、イベント企画やインターンシップなど地域協働事業の実現が期待される。

[コース制・セメスター制]

**コース選択で将来の目標を明確にし、
セメスター制を活用して充実した2年間を過ごす**



山田 雅子 教授
国際コミュニケーション学科
教務委員会 委員長
宗像 秀樹
学務課
課長

■ コース制

コース制は1997年に導入された。これによってカリキュラムにも徐々に変化が生まれ、学生が将来就きたい仕事と強く結びついた形での科目展開となっていました。目指す仕事で求められる能力や求められる人材モデルをコース科目のラインナップが示すことになりました。学生の目標も一層明確になりました。また、コース編成については産業界のニーズや学生の意識動向を踏まえ、毎年検討を行っている。在学中にコース変更ができるため、学生の進路選択の幅が保たれています。SAIJOの大好きな魅力となっています。

■ セメスター制

2年間を4学期に分けるセメスター制を導入したこと、学生には大きなメリットがもたらされた。学生自身の選択によって多様な学修計画が立てられるようになりました。半期ごとに見直しの機会が持てるようになりました。さらに、半年間の留学を経ても2年間での卒業が可能になった他、就職活動に合わせた履修調整にも柔軟に対応できています。SAIJOの学びは、教職協働で考え抜いた制度によって支えられています。

[マナー・ホスピタリティ®]

**マナー・ホスピタリティ教育が女性の社会生活を
豊かなものにしていきます**

現在、マナー・ホスピタリティ教育は、SAIJO入学時からスタートする全学生必須の学びになっています。これは質の高いマナーを身につけ、ホスピタリティマインドを養うことが学生自身の可能性を広げ、希望の進路への道を切り開くための大きな力になるという判断からです。実社会においてSAIJOで身につけたマナー・ホスピタリティの知識、技能が役立っていると言ふ多くの卒業生の証言が裏付けになっています。より質の高い指導・教育を行うための意識共有を目的として学長をはじめ、指導する教職員による「マナホス運営会議」を実施しています。このような教職員の努力もあり、2018年には第一回「SAIJOマナホス検定」を実施しました。〈マナホスのSAIJO〉がブランドとして定着しつつあります。

※「マナー・ホスピタリティ」「マナホス」は学校法人川口学園の登録商標です。



足立 雅子
埼玉女子短期大学マナー・ホスピタリティ研究所 所長

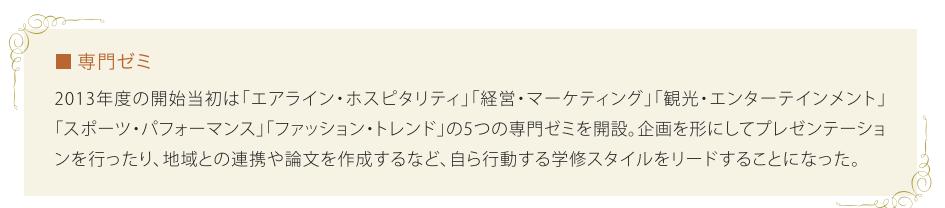
開学30周年を迎えて 感謝・共生・かけ橋

[専門ゼミ]

**ビジネス全般で活躍する際に必要不可欠な「マーケティング能力」
「課題発見・解決能力」を身につけることに重点をおくSAIJOの専門ゼミ**



「ゼミナール」と言えば、四年制大学では2~3年かけて教員の指導のもとに、少人数の学生が特定のテーマについて研究、報告・討論し、発表する双方向性・相互啓発性の高い専門的な学びとしての「ゼミナール」が一般的です。この「ゼミナール」は短大では成立が難しいと言われてきました。しかしSAIJOはより高度な教育の展開を目指し、アクティブラーニングの基幹科目として「専門ゼミ」という形で、2013年度から活動をスタートし大きな成果をあげています。



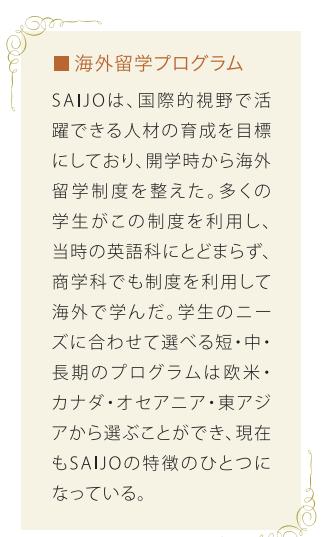
[海外留学・国際交流]

**国際交流委員会の教員と職員は全ての情報を共有し、
協力して海外留学プログラムに取り組む**

開学初期にアメリカの語学研修から始まった海外留学プログラムは、国際交流委員会の教員と職員が協働して現在では、7カ国17カ所の大学やインターンシップ先にSAIJO生を送り出しています。学生の希望、言語力、ホームステイ先の状況、現地大学のプログラムや環境を把握し、現地からの報告があった時にはすぐに対処できるように教職員は常に情報を共有しています。学生が現地で困らないよう、きめ細やかな出発前オリエンテーションも行います。学生が留学先で安心・安全に生活しながら学ぶことを実現するためにも危機管理が非常に重要です。その中でも現地の治安や安全面については特に気を配り、国際交流委員会では常に現地の情報を入手して治安や安全が十分確保されているかを確認しています。学生が日本を出発してから無事に帰国するまで教職員が互いに協力し合い、万全のサポート態勢で取り組んでいます。



山科 美智子 准教授(右)
国際コミュニケーション学科 国際交流委員会 委員長
菅谷 久美子(左)
学務課

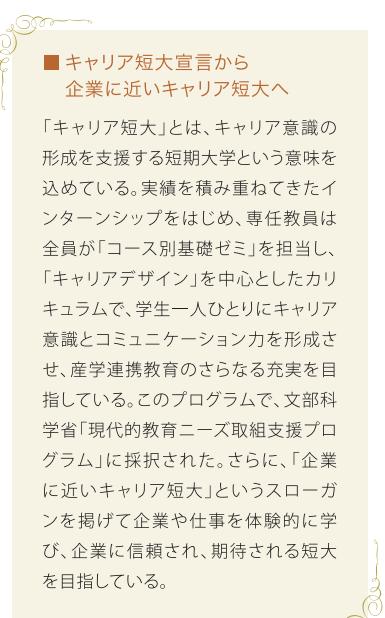
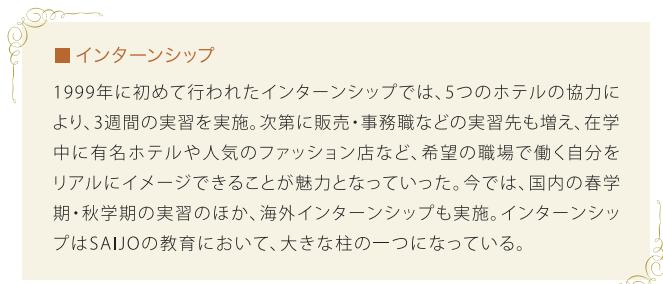


白石 晴美 講師(右)
商業科
キャリアサポート委員会 委員
金子 美和(左)
キャリアサポートセンター センター長補佐

[インターンシップ]

**130社以上の企業協力のもと、
実践的に学ぶことができるインターンシップを実施**

本学のインターンシップは、単なる職業選択のための手段に留まらず、様々な視点で学生の成長を促すプログラムになっています。実際の仕事を経験することで、在学中に何を学び、何を身に付けるべきかを明確にしていくとともに、きめ細やかな事前のオリエンテーションにより、お客様や社会人の方々と接するに相応しい身だしなみ、立ち居振る舞い、社会人としての心構えなどを学ぶことができます。本学のマナーとホスピタリティ教育をベースに企業の方から「SAIJOの学生なら!」と言っていただけるを確立しています。また、キャリアサポートセンター職員や担当教員が実習先を訪問し、企業側からのご要望についても丁寧にヒアリングを行い、双方にとって実のあるインターンシップを目指しています。



[キャリアサポート]

**教職員が緻密に連携した就職支援により、
2019年3月卒業生の就職内定率は100%を達成**



森川 佳世 教授
国際コミュニケーション学科
キャリアサポート委員会 委員長
木野下 浩
キャリアサポートセンター センター長

SAIJOの就職指導は、キャリアサポートセンター職員と教員が緻密に連携して学生の長所を引き出し、それを生かせる進路支援に力を入れています。就職活動の成功は就職指導だけではなく、キャリア形成を目的として全学体制で実施する「マナー」「ホスピタリティ」「インターンシップ」といった実践的な教育を、高いクオリティで実施している結果もあります。さらにキャリアサポートセンター職員は必要な情報の提供だけで終わらせず、学生に寄り添ったface to faceの対話を重視する親身な指導を行うことで、希望する企業への就職を実現させています。就職活動支援は学生の人生を左右する重要な役割だからこそ、教員、職員と学生の揺るぎない信頼関係が必須です。

